令和7年度研修病院アンケート 結果報告

目　　　　　的：本学が設定した卒業時到達目標（卒業時コンピテンス）に照らして、卒業生の研修状況を研修病院に調査し、今後の教育改善につなげる。

実　　施　　日：2026年1月20日～2月13日（郵送返送のため2/20まで受付）

対象研修病院：42施設

評価対象研修医：令和6年度卒業生のうち、アンケート実施同意者81名

回　　答　　数：27施設（回答率：64.3%）
54名分（回答率：66.7%）

調　査　内　容：各項目について、病院側が「どの程度の能力備えていると思われますか」を4段階（「十分に備えている」「ある程度備えている」「あまり備えていない」「全く備えていない」）で回答している。

【分析結果】

1. プロフェッショナリズム

「十分備えている」「ある程度備えている」を合わせるとほぼ全員が肯定的に評価しており、専門職としての基本姿勢は着実に身についていることがうかがえる。教育成果が安定して表れている領域といえる。

2. コミュニケーション能力

約6割が「十分備えている」と回答しており、評価は高い水準にある。一方で、少数ではあるが十分でないとの回答もあり、実践機会の充実などの改善が望まれる。

3. 医学と関連領域の知識

肯定的回答は大多数を占めており、一定の評価は得られている。一方で、「十分備えている」との回答は3割程度にとどまっており、体系的な知識取得に向けたカリキュラム構成の見直しと改善が望まれる。

4. 医療の実践

ほとんどが肯定的に評価しており、臨床実習等を通じた実践的能力の育成は概ね順調であるといえる。

5. グローバル化する社会及び国際社会への貢献

他項目と比較すると肯定的回答の割合がやや低く、「十分備えている」は1割程度にとどまっている。国際的視野や社会的役割への意識を涵養する取り組みの充実が求められる。

6. 研究マインドの育成

「十分備えている」は1割程度であり、「あまり備えていない」も比較的高い割合を示している。特に高学年において、研究マインドを涵養する科目や取り組みの導入が望まれる。

【まとめ】

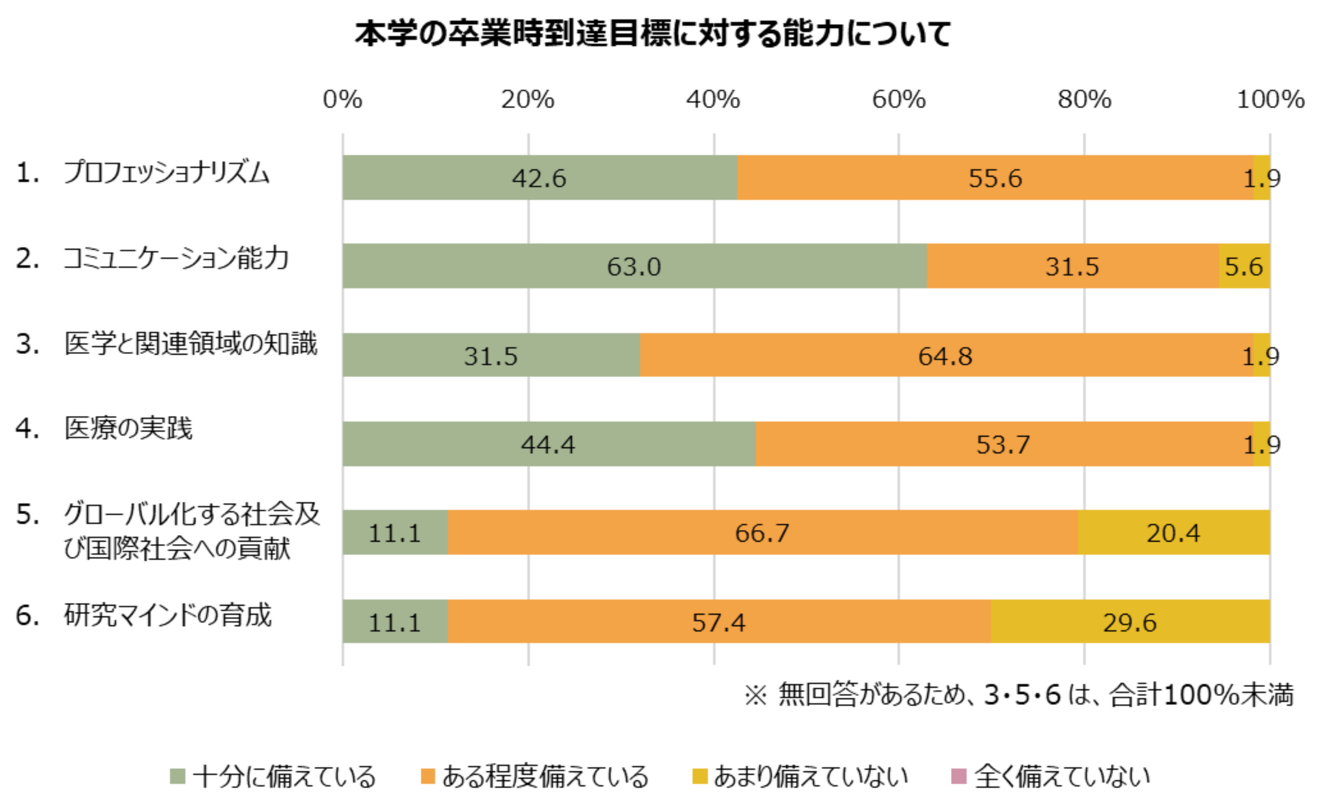
専門職としての基盤的能力（プロフェッショナリズム、コミュニケーション、医療実践）は概ね高く評価されている。一方で、国際性および研究マインドの育成については課題であるとの指摘もあり、今後の重点検討領域といえる。

【その他】

今回初めて、研修病院（外部）においてもWEB回答方式を提供した結果、25施設中14施設にて利用されたため、次年度以降の実施について引き続きWEB回答方式も提供する方針としていきたい。

研修病院アンケート
令和6（2024）年度　卒業生対象

設問１．本学が設定する６つの卒業時到達目標について、本学卒業生が現在どの程度の能力を備えていると思われますか。



※ 無回答があるため、3･5･6 は、合計100%未満